

(別紙4(2))

事業所名 浦安いまがわ館

## 目標達成計画

作成日: 平成 27年 11月 15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 |      |                                                                                                       |                                                                             |                                                                                           |            |
|----------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 優先順位     | 項目番号 | 現状における問題点、課題                                                                                          | 目標                                                                          | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容                                                                        | 目標達成に要する期間 |
| 1        | 1    | 職員全体での「理念の共有と実践」を強固にするための工夫として、全職員により話し合いで運営理念を新たに作り直したが、大切な「地域密着」という考え方が反映されたものでなかった。見直しが必要。         | 新理念に対する職員の考えを活かしつつ、地域密着型サービス施設としての運営理念を再検討し作成し直す。                           | 旧理念を参考にし、是非とも必要な考え方を新理念の最後の一文に反映する。定例会議の研修の中で作成作業を行なう。                                    | 3ヶ月        |
| 2        | 2    | 地域との交流は、自治会に加入することによって様々な催しを通して行われているが、事業所としてまた介護施設として地域に貢献できることが難しい。現状一方的でこちらからのアプローチが行われていない。       | 施設の館内催し物などに積極的に招き、双方の交流を実現したい。                                              | 新年からの催しには、①自治会を通して②支部社協メンバー③近隣の住民、等を招き、グループホームサービスの理解を深める。                                | 12ヶ月       |
| 3        | 6    | 身体拘束について、隔月で検討会を開き議事は施設内に周知していたが、具体的「禁止行為11項目」についての確認が手薄であった。                                         | 職員全体が禁止行為11項目について熟知し、日頃の業務の中で意識できること。                                       | 隔月で行われる身体拘束廃止委員会ではもちろん、定例会議での勉強会(年内に身体拘束をテーマに行なう予定であった)の議題に乗せ、11項目について話し合い、考え方として浸透させてゆく。 | 6ヶ月        |
| 4        | 35   | 防災避難訓練などは年2回行なっているが、備蓄品の管理においては必要充分量であるか、またその保管場所は確保できるかの問題がある。また近隣と何らかの連携体勢がとれるかの検討や具体的な体制作りはできていない。 | 備蓄品の問題である保管場所の確保については事業所として本社と連携し整備する。地域の自治防災組織と関わりを深め、少しでも連携が取れるような繋がりを持つ。 | 本社に備蓄品の保管場所の確保(非常時に適正に使用できる環境にすること)を要請。自治防災組織の催し物に積極的に参加する。                               | 12ヶ月       |
| 5        | 52   | 限られた空間においての備品の整理が上手く行なわれていない。美化に合わせ安全面からも、改善が必要。                                                      | 設備改善とともに、基本的な収納の方法や小物の配置などを考える。必要な物を安全に機能的に収納し、結果的に雑然としたレイアウトを正し美化に繋げる。     | 手掛ける場所のリストアップ(優先順位をつける)<br>→収納方法、レイアウトの考案<br>→収納棚等の交換<br>※まずは危険なものがすぐ手に触れるような環境の改善を最優先    | 12ヶ月       |

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。